

2021年3月3日

リコー、ラテックスインク搭載の大判インクジェットプリンター
「RICOH Pro L5160e/L5130e」を発売

～サインディスプレイ・インテリア市場で求められる高い生産性と幅広いメディア対応力を強化～

株式会社リコー(社長執行役員:山下 良則)は、サインディスプレイ市場に向けて、ロールメディアに印刷して壁紙や懸垂幕、タペストリーなどを制作する大判インクジェットプリンター「RICOH Pro L5160e/L5130e」を2021年3月15日に発売します。



RICOH Pro L5160e/L5130e(オプションのオペレータコールライト装着時)

近年、商業施設ではブランド構築や、商品のプロモーション、店舗のコンセプトにあわせた空間を演出するために、壁紙の貼り換えや屋外・屋内の広告を季節ごとに短納期で行うニーズが拡大しています。こうしたニーズに対応するために、印刷会社では多品種小ロットの生産が可能なデジタルプリントの役割が増えています。一方、従来からサインディスプレイ市場で広く活用されている溶剤系インクは、印刷後の乾燥時間が長く、制作に時間と手間がかかるほか、環境や人体に影響のある成分が含まれ強い刺激臭が発生するため、屋内の壁紙用途としては制限があります。

新製品「RICOH Pro L5160e/L5130e」は、2014年1月に発売したラテックスインクを搭載した「RICOH Pro L4160/L4130」の後継機種で、従来機に比べ、生産性と操作性を向上させました。3つのインクジェットヘッドをスタガ配列*1することで一度に広い面積の印刷を実現し、さらには速乾性のあるラテックスインクを採用することで従来の溶剤系インクで必要だった乾燥時間を削減し、標準モードで印刷速度 25 m²/h*2 と前身機と比べ、約 2 倍の印刷速度を実現しました。水性ベースで VOC*が極めて少なく特別な換気を必要としないラテックスインクを採用することで、屋外・屋内の広告や壁紙を高速で印刷できるようにしました。紙・布などのノンコートメディアや、塩化ビニールやターポリンといった幅広いメディアへの出力が可能となります。また、シアン・マゼンタ・イエロー・ブラック(CMYK)のインクに加え、オレンジとグリーンのインクを搭載し、CMYK4色では再現しにくい華やかな オレンジや明るいグリーンの表現を実現し、

株式会社リコー www.ricoh.co.jp

報道関係のお問い合わせ先 広報室 TEL : 050-3814-2806(直通) E-mail : koho@ricoh.co.jp
お客様のお問い合わせ先 リコーテクニカルコールセンター TEL : 0120-892-111

POP などの表現力を高めています。さらに、ホワイトインクを下地^{*1}として使用することで、PET (PolyEthylene Terephthalate)などの透明素材でも本来の色鮮やかさを再現できるため、ウィンドウグラフィックスなどのアプリケーションへも高画質な印刷が可能です。また、操作画面は新たに 4.3 インチのフルカラー液晶タッチパネルを搭載し操作性を向上させ、テスト印刷やヘッドの高さ調整などのさまざまな設定も画面にタッチするだけで簡単にできるようになりました。

また、このたび、リコーの国内販売会社であるリコージャパン株式会社(社長執行役員:坂主 智弘)は壁紙ビジネスに必要な設備やノウハウを有するリンテックサインシステム株式会社(代表取締役:小島一仁、以下、リンテックサインシステム)とパートナーシップを組みます。デジタルプリントのニーズが増加するなか、壁紙の生産・販売に必要な建築基準法に定められた防火認定や F☆☆☆☆(読み:エフ フォースター)といった証明書発行に際して、その製造基準認証を製造業者が取得する必要があります。

リンテックサインシステムは、こうした課題解決を支援するために、申請書の記入ノウハウの支援から認証までを一気通貫で行うことができます。さらには、同社が提供する壁紙とリコーのラテックスインクとの組み合わせで印刷した壁紙の評価がすでに済んでいるため、認証取得に必要な評価プロセスの短縮が可能です。新製品を活用した国内の壁紙ビジネスの展開は、お客様の認証支援を含めてご支援します。

リコーは、屋内外のサインディスプレイや壁紙市場において、多品種少量や短納期へのニーズに柔軟に対応する製品・サービスを提供することで、印刷会社のビジネス拡大を支援するとともに、衣・食・住に関わるさまざまなシーンでプリントの可能性を広げ、新しい価値、新しい体験を提供することで、新たなプリント文化の創造に寄与してまいります。

*1 インクヘッドの位置をずらす配列

*2 4色モードの場合

*3 Volatile Organic Compounds:揮発性有機化合物

*4 ホワイトインクを下地とした場合は、シアン・マゼンタ・イエロー・ブラックの4色

製品名	RICOH Pro L5160e	RICOH Pro L5130e
プリント方式	インクジェット方式	
最大プリント範囲	1,625mm	1,371mm
標準価格(スタンド込み、消費税別)	280万円	250万円
受注開始日	2021年3月4日	

なお、リコージャパン株式会社は、2021年3月9日(火)から12日(金)まで開催される第50回店舗総合見本市「Japan Shop」に出展します。

第50回店舗総合見本市「Japan Shop」

会期:2021年3月9日(火)~12日(金)

場所:東京ビックサイト(東京国際展示場) 西展示棟(東京都江東区有明 3-11-1)

主催:日本経済新聞社

URL:<https://messe.nikkei.co.jp/js/>

リコーブース:西1ホール JS1330

＜新製品 RICOH Pro L5160e/L5130e の主な特徴＞

1. 高生産能力を発揮し、多品種小ロットのビジネスを支援

- ・ 3インクヘッドの位置をずらすスタガ配列を採用することで一度に広い面積に印字できるため、標準モード25.0m²/h*1の高速プリントを実現。前身機と比較して約2倍の高速化を実現。
- ・ 速乾性のある生産性の高いラテックスインクを採用し、従来のソルベントインクより短い乾燥時間で、印刷直後の次工程(ラミネート加工・発送)への移行が可能。

*1 4色モードの場合

2. 幅広いメディア対応力で、多種多様なニーズへの対応を支援

- ・ 水性インクに含まれる樹脂が溶解し、皮膜をつくり顔料を定着させるラテックスインクを採用したことで紙や布などのノンコートメディアに加え、防炎クロスや塩化ビニール、ターポリンといったさまざまなメディアへの出力を実現。
- ・ ラテックスインクを採用することで、防火認定を必要とするメディアへの印刷が可能となり、壁紙などの新しいニーズへの対応を実現。

3. 多種多様なメディアに高画質な印刷

- ・ 8本装着できるインクカートリッジは、用途に合わせたカラー構成の選択を可能とし、生産性の高い4色モードのほか、高画質な6色モード*2などの選択を可能とすることで4色では再現しにくい華やかなオレンジ、明るいグリーンの表現を実現し、国際的な標準色であるPANTONE®カラーチャートを、近似色で85%カバー。みずみずしさが求められるPOPやポスターへの対応が可能。
- ・ ホワイトインクを下地として使用することで、ウィンドウグラフィックスといった透明素材でも本来の鮮やかさを実現。

*2 CMYKに加え、オレンジとグリーンのインク搭載が可能

4. 高い操作性により、業務の効率化を支援

- ・ 直感的な操作を可能とする4.3インチのフルカラー液晶タッチパネルを標準搭載。テスト印刷やヘッドの高さ調整などさまざまな設定を画面タッチで簡単に行えます。メディアチルト機構で操作しやすい角度に調整することも可能で、ストレスのない操作性を実現。
- ・ メディアに関する設定を登録したり呼び出したりする機能を搭載し、メディアごとに最適な設定値を使用することが可能で、画像品質の安定化を実現。
- ・ LEDライトを本体内部に設置。印刷品質を確認できるほか印刷中のトラブルの早期発見を可能とし、生産性の向上を支援。

※PANTONE は、米国 Pantone LLC の商標または登録商標です。

※その他、ニュースリリースに掲載されている社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

｜ リコーグループについて ｜

リコーグループは、オフィス向け画像機器、プロダクションプリントソリューションズ、ドキュメントマネジメントシステム、ITサービスなどを世界約200の国と地域で提供するグローバル企業です(2013年3月期リコーグループ連結売上は1兆9,244億円)。

人と情報のかかわりの中で新しい価値を生む製品、ソリューション、サービスを中心に、デジタルカメラや産業用の製品など、幅広い分野で事業を展開しています。高い技術力に加え、際立った顧客サービスや持続可能社会の実現への積極的な取り組みが、お客様から高い評価をいただいています。

想像力の結集で、変革を生み出す。リコーグループは、これからも「*imagine. change.*」でお客様に新しい価値を提供していきます。

より詳しい情報は、下記をご覧ください。

www.ricoh.co.jp/about/